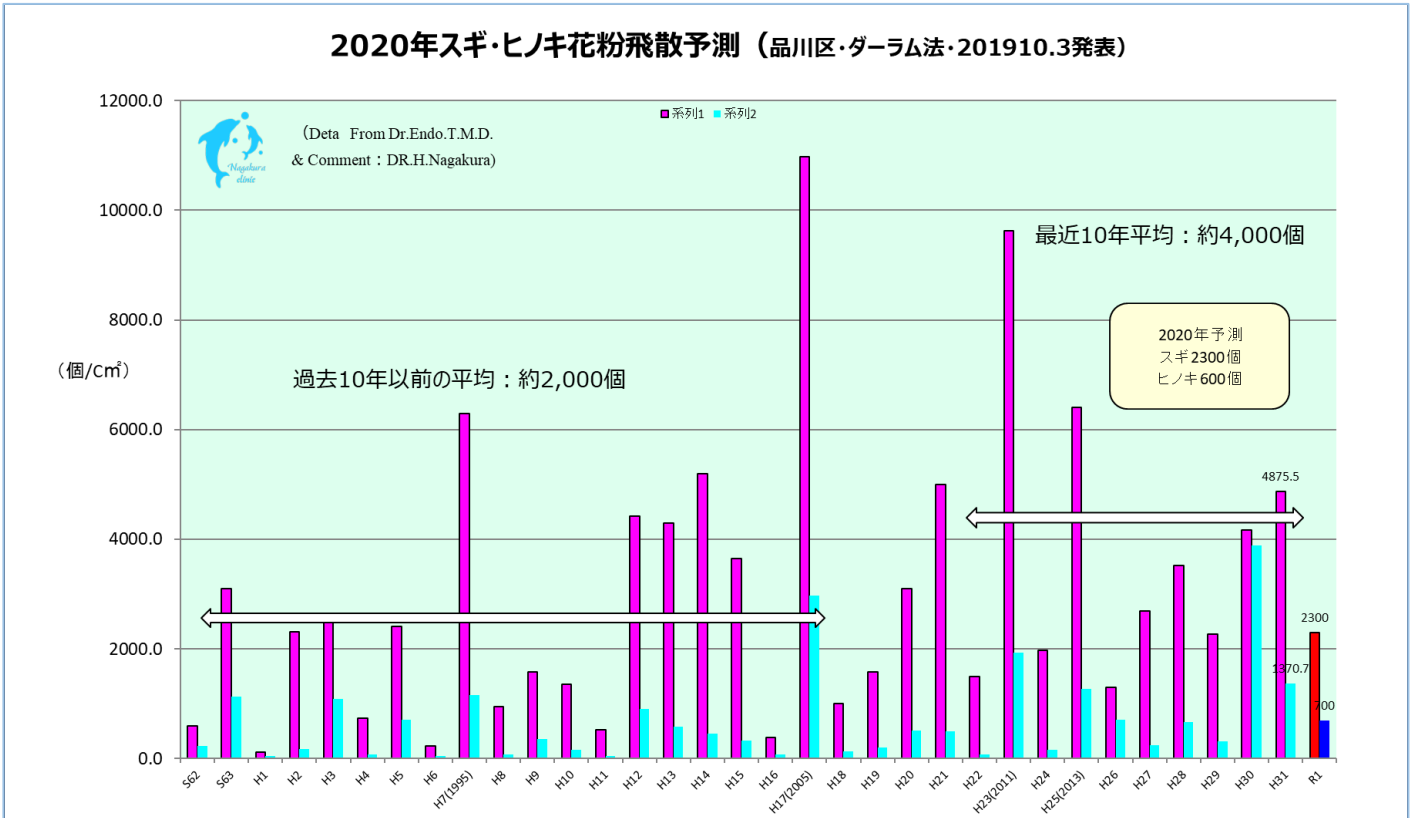


梅雨明けが遅く7月末まで雨が多く、その反面8月初旬から猛暑となった2019年の夏の気候ですが、来年(2020年)のスギ・ヒノキ花粉飛散はどうなるのでしょうか?

(Key Word : スギ花粉予報、2020年、花粉飛散量、気象条件、スギ花粉、ヒノキ花粉、飛散開始日)



『2020年のスギ・ヒノキ花粉飛散予報』

翌年の花粉の飛散量は、前年の夏の気象条件に最も影響を受けます。その中でも、花粉の生産に最も強く影響する7月～8月の日射量を見ると、今年(2019年)の8月は猛暑で日射量が多かったため、花粉が多くなる条件がそろっているもの、7月は記録的な冷夏となり過去10年をみても最も日射量が少なかったため花粉生産を減らす要因がありました。総合的に見ると、東京都(都内・品川区)の来年(2020年)のスギ花粉飛散は、『例年平均の約50～70%、スギ花粉2,000～2,800個、ヒノキ花粉600～800個と少な目の花粉飛散』となると予測されます。

◆スギ・ヒノキの雄花は、6月～7月に、まず花芽が分化し、その後、7月～9月に成長することが分っています。

2019年の、6月の日照時間と気温は、全国的に平年並みでした。

しかし、7月は記録的な冷夏となり、日照時間は過去10年間で最も少なく、また、気温も低めでした。

これに反し、8月は記録的猛暑となりました。

これらの影響を受けて、来年(2020年)のスギやヒノキ花粉飛散量は、過去10年平均と比較して40%から70%と減少すると分析されます。

◆日本気象協会の気象データを見ると(図1)、

- (1) 6月の日射量、平均気温は平年並み。
 - (2) 7月は記録的冷夏。
 - (3) 8月は東日本を中心に記録的猛暑。
 - (4) 9月になっても平均気温は高く、日射量も多め。
- となりました。

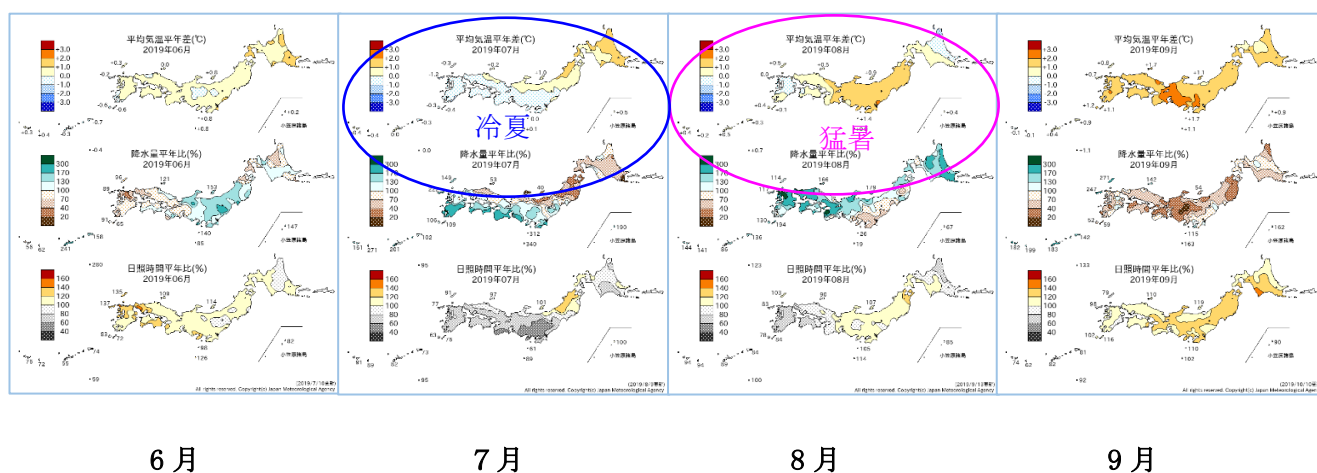


図1: 2019年6月～9月の日射量・降水量・平均気温(参考: 日本気象協会)

◆2020年のスギ花粉飛散開始は?

今年のこれからの天候は、11月から12月は気温がやや高め、来年(2020年)の1月の気温は平年並み、2月はやや高めと予想されています。

スギの雄花は、11月からの気温の低下と日照時間の短縮の影響を受けて「休眠」に入り、その後、一定期間の低温に暴露にさらされると、休眠から覚醒し、開花の準備を始めます。

今年の秋の気温が高めという気象条件の影響を受け、2020年のスギ花粉開始は『例年並みがやや遅くなる』と予想されます。

このため、2020年春のスギ花粉、『飛散開始は例年並みかやや遅め』、東京都内の飛散開始は、2月15日～18日位と予想されます。また、この飛散開始日は、この時期の天候にも影響されます。来年、冬の気候は、天候が変わりやすく、降雪もたびたびある可能性もあると予想されていることあり、飛散開始日周辺の天候によって遅れたり、あるいは、早まることもあります。

【2020年スギ花粉飛散予想】

◆分析◆

- ①花粉量の最も影響する7~8月の日照時間で、7月の日照時間は過去10年間で最も少なく、8月は多め。
 - ②平均気温は、全国的に7月は例年平均より低め、8月は高め。
 - ③降水量は西日本で7~8月ともに多め、東日本は7月は多かったもの、8月は少なめ。
 - ④7月の日照時間は全国的に少なめ、8月は東日本は多めとなりました
- (参考：図1. 2019年6月~9月気象条件(気象庁))

◎気象条件よりの予測

2020年、過去10年平均と比較して40%から70%と減少すると分析されます。

◎樹勢よりの予測

過去5年間花粉の着花量が平年並み~多かったことより、樹勢は「やや弱くなる可能性が多い。」と分析されます。

◆2020年花粉飛散予測◆

【1.前年比】

10年平均と比較して40%から70%と減少する。

【2.過去10年平均との比較】

他の地域は50%から80%と減少する。

◎2020年都内の予測

東京都(品川区)

昨年の約4,875.3個に比較して、2020年はそれより少ない、スギ花粉2,000~2,800個、ヒノキ花粉600~800個と予想されています。

◎2020年花粉飛散開始日の予測

2020年1月~2月は平年並みかやや暖かめと予想されるため、休眠からの覚醒が遅れ気味であることより、**2020年春の花粉飛散開始日は、例年並みかやや早くなると予想され、2月15日~18日位と予想されます。**
(日~18日位)

(参考資料：気象情報支援センター・花粉情報協会)

(分析：ながくら耳鼻咽喉科アレルギークリニック・永倉)



◆日本気象協会の予想 (<https://tenki.jp/pollen/expectation/>)

2020年 春の花粉飛散予測 (第1報) (2019年10月2日)

●飛散量は広い範囲で例年より少なく、特に四国、九州は非常に少ない！

- ◆広い範囲で例年より少なくなり、四国と九州は非常に少ない予想
- ◆西日本と東日本は前シーズンよりも少なく、九州から東海は非常に少ない
- ◆青森と北海道は前シーズンと比べると非常に多くなる見通し

1.2020年シーズンの花粉飛散傾向 (スギ+ヒノキ)

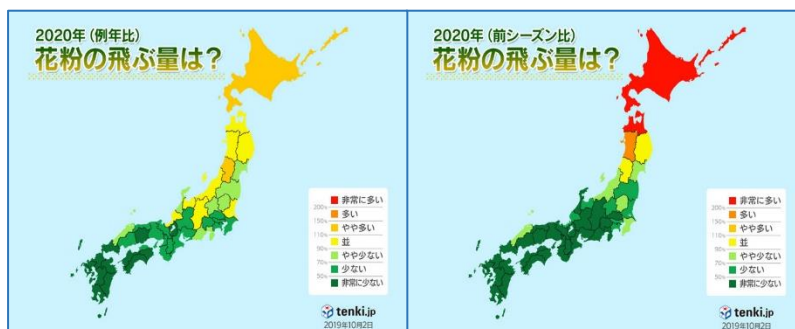
2020年の花粉飛散量 (前シーズン比)

① 例年と比較

2020年春の花粉飛散予測は、九州から関東甲信にかけて広い範囲で例年より少ない見込みです。特に、九州は非常に少なく、中国や四国でも非常に少ない所があるでしょう。東北は例年並みか少なめ、北海道はやや多い予想です。

② 昨年との比較

前シーズン比で見ると、九州から東海は、ほとんどの所で非常に少ない見込みです。関東甲信、北陸も少なくなる予想です。東北は、北部で前シーズン並みか多く、南部では前シーズンより少なめとなるでしょう。北海道は非常に多い予想ですが、これは前シーズンの飛散量が例年より非常に少なかったためです。



地方	飛散量(地方平均値%)		2019年夏の気象		
	例年比	前シーズン比	気温	降水量	日照時間
北海道	やや多い (130%)	非常に多い (300%)	高い	多い	平年並
東北	例年並 (90%)	前シーズン並 (90%)	高い	平年並	平年並
関東甲信	やや少ない (70%)	少ない (50%)	高い	多い	少ない
北陸	例年並 (90%)	少ない (50%)	高い	平年並	平年並
東海	少ない (60%)	非常に少ない (40%)	高い	多い	少ない
近畿	少ない (50%)	非常に少ない (20%)	平年並	多い	少ない
中国	少ない (50%)	非常に少ない (30%)	平年並	平年並	少ない
四国	非常に少ない (30%)	非常に少ない (20%)	平年並	多い	少ない
九州	非常に少ない (30%)	非常に少ない (20%)	平年並	多い	少ない

(End)